

共同運営部門：相談支援室・がん相談支援センター

＜スタッフ紹介＞

役 職	スタッフ名
副院長兼診療支援局長 兼消化器外科主任部長兼がん治療センター長 兼がん相談支援センター長	種村 匡弘

＜関連部署＞

部署名
看護局 外来
医療マネジメント課 相談支援室

＜特色と概要＞

誰もが「一人で悩まない」ための架け橋として＞

当センターは、患者やご家族が抱える病気への疑問や治療方針への不安に寄り添い、共に解決の道を探る「心の拠り所」である。

大阪府指定のがん診療拠点病院として、専門的な知見に基づいた「がん相談支援センター」の役割を果たすとともに、疾患を問わずあらゆる不安に対応する「相談支援室」を併設している。当院の患者に限らず、地域住民の皆様が予約不要かつ無料で利用できるオープンな窓口として、看護師や MSW（ソーシャルワーカー）が対面・電話にて真心を込めて対応している。

がん相談支援センター

大阪府指定のがん診療拠点病院としての「がん相談支援センター」の役割を担い、がん診療に関連する様々な不安、悩み、心配の解決への支援を行っている。

相談支援室

がん以外の疾患に関する相談は「相談支援室」にて対応している。当院通院中の患者及びご家族だけでなく、他院診療中の患者や地域住民のどなたでも利用できる医療相談室である。相談体制は看護師、MSWが対面または電話で対応しており、予約は不要、無料で利用できる。

＜2025 年度の実績：高まる信頼と支援の広がり＞

2025年度の延べ相談件数は2,659件に達し、前年度から932件という大幅な増加を記録した（図1）。これは、当センターの存在が地域に深く浸透し、信頼の輪が広がっている証しであると自負している。

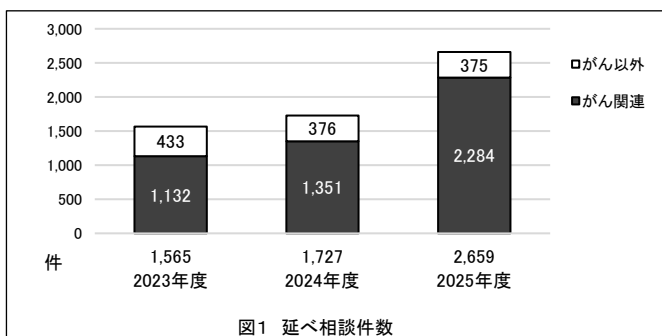


図1 延べ相談件数

- 多角的な支援の展開**：相談内容は、不安や精神的苦痛（1,397件）を中心に、経済的問題や就労相談、意思決定支援など、多岐にわたる（図3）。
- 早期介入体制の確立**：外来での告知直後から主治医・看護師が当センターを案内する体制を強化し、不安の早期解消に努めている。
- 専門チームとの連携**：緩和ケアチームや精神科医師、認定看護師によるインフォームドコンセントへの同席など、多職種がワンチームとなって患者の「生きる力」を支えている。
- 地域へのアウトリーチ**：泉佐野市役所での「出張がん相談」や市民向け講演会を通じ、病院の壁を越えた支援活動を精力的に展開した。

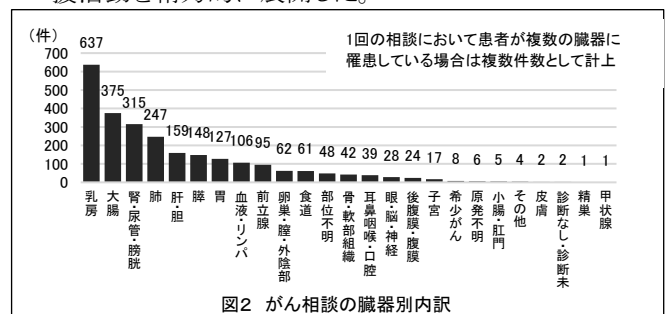


図2 がん相談の臓器別内訳

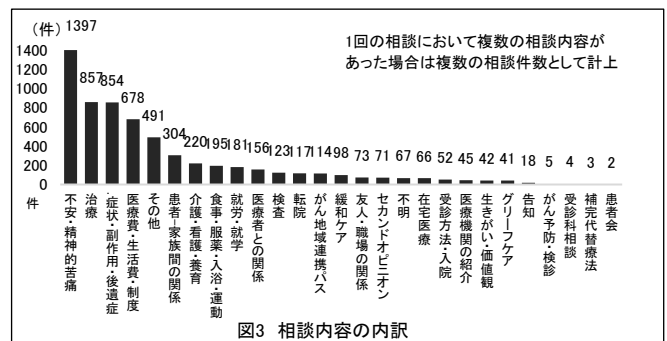


図3 相談内容の内訳

院外活動	
泉州がん拠点病院合同講演会 「いま知っておきたいがん治療支持療法の最新情報と乳がんラジオ波焼灼療法」	2025.10.25
泉州がん相談支援部会 がん患者サロンin泉州	2026.1.31
泉佐野市役所まちの保健室にて 出張がん相談	2026.1.22 2026.3.26

＜2026 年度への抱負＞

全人的な「医療相談」の新たなステージへ＞

がん相談支援センターへの相談内容は、がん告知後の不安・精神的苦痛、就労、経済的問題、治療の意思決定、治療上の副作用のことなど複合的な不安、悩みであり、解決していくには院内・外との多職種連携が不可欠である。

今後は患者が抱える不安や悩みが解決できたかを把握し多職種連携で患者を支援する流れを構築していく。

2026年度より当センターは「統括医療プロモーションセンター」へと移行する。がん相談だけでなく全ての医療相談を一括で担当することとなり、新たな一歩を踏み出す。